

2024年2月15日

災害現場における燃料電池発電機の活用に向けて 日本赤十字看護大学と実証実験に関する連携協定を締結

帝人株式会社は、日本赤十字看護大学（以下、日赤看護大）と共同で災害時の非常用電源として燃料電池発電機を活用する実証実験に向けた連携協定を締結しました。

豪雨や地震といった自然災害時では、長時間の停電に備えて非常用電源の確保が重要となります。現在、非常用電源としてさまざまな発電機が利用されていますが、ガソリン発電機やディーゼル発電機は、使用時の騒音や臭いの問題、稼働中に排出するガスによる一酸化炭素中毒のリスクが課題となっています。

こうした中、災害救護に関する新たな知見や技術の積極的な活用を探索する日赤看護大は、有毒ガスや臭いが発生せず低騒音で稼働する燃料電池発電機に着目し、災害時の非常用電源としての活用を検討していました。一方、帝人は水素エネルギーの普及に向けて、可搬型の燃料電池発電機の「燃料電池ユニット」と同ユニットに水素を供給する「圧力容器ユニット」を開発しており、様々な現場での活用に向けて実証実験を行うパートナーを探していました。

こうした両者の考えが一致し、このたび、災害発生時の非常用電源として燃料電池発電機を活用することを想定した実証実験を2024年度中に実施する連携協定を締結しました。

実証実験は、日赤看護大の付属で、災害救護活動の研究に特化した機関である災害救護研究所と共同で実施します。災害発生時を想定し、ガソリンやディーゼル発電機の運用が困難な閉鎖空間における燃料電池発電機の非常用電源としての有効性の確認や、限られたスペースにおける設置場所および換気方法の確認、また、医療機器向けに使用される医療用のバックアップ電源への給電装置としての有効性の検証や課題の抽出などを実施する予定です。

帝人は日赤看護大と実施する実証実験を通じて、燃料電池発電機に関する研究開発を進め、災害時に電力を必要とする被災者の方々のQOL向上を目指します。

以上

帝人グループは、本年2月28日から3月1日まで東京国際展示場（東京ビッグサイト）で開催される「第21回 H2&FC EXPO 国際 水素・燃料電池展」に出展を予定しており、各ユニットのほか、小型の燃料電池「IE-LIFT 1T」、炭素繊維を使用した圧力容器「ウルトレッサ」の展示を行います。（ブース番号：W1-20）

【 報道関係のお問合せ先 】

帝人株式会社 広報・IR部 TEL: (03) 3506-4055

【 その他のお問い合わせ先 】

帝人株式会社 アライアンスマネジメント部 TEL: (03) 3506-4398